

**インターネットでの子育てバリアフリー情報の提供\***  
**～インターネット地図型掲示板「カキコまっぷ」を事例に～**  
**Information of Barrier Free for Childcare on the Internet\***  
**- Case Study on Internet Mapped Information Board System “KAKIKO MAP” -**

真鍋陸太郎\*\*

By Rikutarō MANABE\*\*

## 1. 研究の背景・目的・構成

子育て世代は子供の世話に追われ、快適な子育て生活に必要な情報に触れる機会が失われがちである。行政や関係機関は広報誌などいくつかのメディアを通じて多くの情報を提供しているし、保健士などによる電話相談や家庭訪問で子育てをサポートするような制度もある。さらに、近年の情報技術、特にインターネットなどの情報ネットワーク技術の進展は子育て世代への情報提供に関しても既存の各種手段に加えて有用な手段を提供している。本研究は、既往研究レビューとインターネット地図型掲示板の1つである「カキコまっぷ」の活用事例の分析を通じて、インターネットでの子育て支援情報の提供についての示唆を得ることを目的とする。

本論の構成は次の通りである。まず、インターネット上の子育て情報・支援に関する既往研究を整理する。その後、カキコまっぷについての概要を述べ、カキコまっぷを子育て支援情報の提供のために用いている「ママパパぶりっじ」の事例を分析する。以上から、インターネットでの子育て支援情報の提供についての示唆を得る。

## 2. インターネット上の子育て情報に関する既往研究

インターネット上の子育て情報に関する研究は、①インターネット掲示板やメールでの相談の様子を分析したものや②保育園や幼稚園の業務支援としてデジタル連絡帳を提案したもの、③近年のインターネットでの情報提供の種類に関したのものや、④携帯電話ホームページでの情報交換の様子を論じたもの、さらには、⑤自治体での育児支援情報の提供のあり方を分析したものがある。

### (1) インターネット掲示板やメールでの相談

インターネット掲示板やメールでの相談の様子をインターネット普及初期に論じたものとして、浜崎他(2001)<sup>1)</sup>、林他(2003)<sup>2)</sup>、小林(2003)<sup>3)</sup>を取り上げる。

浜崎他(2001)は、インターネット上の「養育者掲示

板」「小児科医掲示板」「保育士掲示板」を対象として発言の1つ1つを「育児に関する質問」「育児報告」「子ども自慢」などにカテゴリ化して数量化分析を行い、インターネット掲示板には「育児問題に関する情報提供」「病気に関する情報提供」「園に関する情報提供」「発達に関する情報提供」「育児ストレス解消」「育児行動助長」「園に関する意見交換」の7つの機能が存在すると結論している。

林他(2003)では、ある子育て支援サイトの掲示板とメール相談内容、アクセス・利用時間を分析し、「直接的な子どもの問題以上に、母親自身の悩みが多い」とした上で、「子育て支援活動が新聞やテレビ・ラジオなどマスメディアに取り上げられた時期に、目立って相談件数が増えた」という事実から「支援HPアドレスを知ることがこの支援を利用することへと繋がる現実を考えれば、広報活動も情報化時代における支援活動において今後の重要なポイントである」としている。

小林(2003)では、幼稚園や保育園に通う園児の母親を対象としたアンケート調査を実施している。「不安が高かったり対人関係について消極的な母親がインターネットを利用した場合には、育児ストレスが見られなくなる緩和効果が示された」と指摘している。さらに、「なるべく専門家との対話ができるようなシステムを作ることが望ましい」とした上で、「ホームページによる情報提供と電子メールによる相談システムが有効に運用されれば、メール相談から他の専門機関に照会することによって、保護者へのカウンセリングを開始することもできる」と展望を述べている。

### (2) 園の業務支援としてのデジタル連絡帳

笹田他(2004)<sup>4)</sup>と笹田他(2004)<sup>5)</sup>は保育園や幼稚園の業務支援としてデジタル連絡帳を提案している。笹田らによるデジタル連絡帳では保育園や幼稚園で日常業務として作成される「連絡帳」「児童原簿」「保育記録」をこれまでの業務より負担が増えることなくデジタル化し、さらに保護者の携帯電話へ画像を参照するwebアドレスを含んだメールとして連絡帳を配信するシステムを提案しており、将来的には、保護者、教師、園長、専門家、行政の中心に据えた総合的な子育て支援システムとして構築したいとの構想を描いている。

\*キーワード：計画情報、情報処理、観光・余暇

\*\*非会員、工修、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻(東京都文京区本郷7-3-1、TEL03-5841-6220、FAX03-5841-6264、rik@up.t.u-tokyo.ac.jp)

### (3) 近年のインターネットでの情報提供の種類

近年のインターネットでの情報提供の種類についての報告として、吉住他(2007)<sup>6)</sup>は共働き世帯に着目してホームページの動向について分析している。サイト上において情報量の多かった内容は「出産と育児全般」「社会制度や身内・地域によるサポート」「家事負担の軽減方法」の3つであるとし、「働き方についての不安感や自分の時間を大切にしたいといった意識の現れも窺うことができた」とまとめている。

### (4) 携帯電話ホームページでの情報交換の様子

携帯電話ホームページでの情報交換の様子を論じたものとしては、山田(2005)<sup>7)</sup>が興味深い。

まず、育児関連ホームページを利用して0～2歳の子供を持つ20～35歳の母親は「育児アドバイスは専門家のものより、親同士のものを求め」、「一般的に、インターネットを参照していても掲示板などへの書き込みをする人の割合はさほど高くないといわれているが、母親層では半数が書き込みを行っており、コミュニケーション意欲はかなり高い」と特徴を述べている。

携帯電話育児ホームページについては、カテゴリ登録制とウェブリンク制とを比較し、カテゴリ登録制では「障害児の母」や「子どもを亡くした母親」など「私生活へ関心をもたれやすい人々がサイトを設置しているかのような印象もある」とし、一方でウェブリンクは「テーマなどを最初に定めて参加サイトを募るもの」で「リストにあるHP間の結びつきの強さ」は「ウェブリンクの方が圧倒的に強く」、「携帯電話サイト・フリークたちの先端的な利用法が存在する」としている。

携帯電話の子育て支援ホームページは「携帯電話自体が若い世代により活発に利用されているが、育児HP構築についても同様に20歳前後の若い母親によるものが多かった」とし、「携帯電話HPでは設置者の生い立ちが語られることも多く、しかもそれらは不幸な色彩を帯びたものが多い。出身家族の葛藤や、いじめを受けた経験、恋人や配偶者とのぶつかり合い、経済的な苦勞など、リアルな社会では開示しにくい体験である」という。さらに、「掲示板の種別で付き合いのレベルを区分することや、サークルでリーダーとフェローを明確に区分しようとすることも携帯電話HPの特徴である」という。

最後に「携帯電話育児コミュニティのセルフヘルプ・グループとしての分析と効果的な利用法の開発が望まれる」と結んでいる。

### (5) 自治体での育児支援情報提供のあり方

自治体での育児支援情報提供のあり方については、中山他(2008)<sup>8)</sup>が横浜市を対象として郵送によるアンケート

調査を用いて分析し、結論として「小さい子どもがいる場合、パソコンを操作することすらままならない」ため、「『家に届く』広報機関紙というだけではなく、『自分に該当する』という点がポイントであるよう思われる」と述べている。なお、2008年という直近の研究ではあるが携帯電話の利用については述べていない。

### (6) 既往文献のまとめと論点提示

以上からインターネットによる子育て支援情報のあり方についての既往研究をまとめ、論点を提示する。

インターネット掲示板には情報提供のみならず、コミュニケーションの場としての役割がある、あるいは求められているということ、情報提供のシステムを保護者、幼稚園・保育園、行政、専門家のネットワークとして構築していこうという試みがあったこと、携帯電話ホームページは特に若い世代で用いられセルフヘルプ・グループとしての性格もあること、自治体からの情報は自分が該当する情報を家に届けてほしいという要望があることなどがわかった。

本論で対象とするカキコまっぷは、電子会議室的に情報を自由に記入できる、いわばコミュニケーション型のシステムであること、さらに地図上に情報を掲載することから情報の取捨選択に「位置」という1つのキーを加えていることなどが特徴である。

一般的なインターネット利用者よりもコミュニケーション指向が強いという子育て世代はインターネット上の地図を用いた電子会議室を頻繁に活用するのであろうか。また、地図を用いることで必然的に即地的・具体的な情報になるが、このような情報提供の方法は子育て世代への情報提供として如何に有効であろうか。

## 3. インターネット地図型掲示板「カキコまっぷ」

「カキコまっぷ」は、インターネット上に公開された地図に、紙地図に付箋紙を貼っていく感覚で利用者が自由に意見を投稿することのできるシステムでインターネット地図型掲示板の1つであり<sup>9)</sup>、中村<sup>10)</sup>の「ガリバー地図」をインターネット上で実現することを基本のユーザ・モデルとしている。また、「電子会議室」を地図上のある地点に任意に開設できると捉えることもでき、地図をインデックスとして使用する電子会議室とも言える。

「カキコまっぷ」の特徴を簡潔に整理すると、①地図を使用するという点、②地図上の1つの情報が電子会議室に発展するという点、③コンピュータを使用するという点、④インターネット等ネットワーク経由で利用すること、の4点である。

なお、カキコまっぷは、子育て情報の提供に関わらず様々な分野で使用されている。テーマとしては行政指向

のものから趣味的なものまで、地理的範囲としては全国、首都圏、市町村圏から建物内部までといった具合である。

#### 4. ママパパぶりっじと「ママぶりカキコ」

ママパパぶりっじ(以下、ママぶり)は、東京都世田谷区で、子育て世代と子育て支援団体に対する情報提供と子育て支援団体間のネットワークづくりを目的として活動している任意の市民団体である(2004年にNPO法人「せたがや子育てネット」として改組)。組織しているメンバーは固定しているわけではないが、中心となっているのは9名程度で子育て世代当事者をはじめ、まちづくり活動に関わっている人、インターネットの専門家、デザイナーなどである。

ママぶりは、ホームページでのコンテンツ提供、メールマガジンの発行、メーリングリストの運営といったインターネット上での活動を中心としながらも、子育て支援団体のネットワークづくり、子育て世代の交流の場の提供、子育て情報紙の発行など実空間での活動もおこなっている。ホームページ・コンテンツは、カキコまっぷを用いた位置情報をもった情報の収集・提供(=ママぶりカキコ)のほか、団体情報を簡単に登録・閲覧できる「マイホームページ」、電子会議室、子育てに関するニュースの提供、リンク集である。

ママぶりカキコは、既述の通り位置情報をもった子育て世代に関する情報の収集・提供、意見交換のために使用されている。投稿カテゴリについては、当初は決めることが難しいという判断から、投稿のカテゴリに意味を持たずことはせず「あお」「あか」「き」などと色の名前を付けていたが、利用者からカテゴリ設定の要求もあり現在ではカテゴリ設定をおこなっている。

#### 5. ママぶりカキコに記入された情報

2008年5月28日現在、ママぶりカキコには467件の情報が記入されている。既述のとおり当初はカテゴリ分けをおこなっていなかったが、現在ではカテゴリ設定をしている。カテゴリ別の投稿数を整理したものが表1である。「公園・自然」「店舗・習い事」「公共施設・相談機関」といった情報の投稿が多くなっている。

記入された情報は「じゃぶじゃぶ池」や「ベビーカーも平気なカレー屋さん」というようなタイトルで記入されている(表2)。これらの情報は実際に子育て層が体験することで得られる貴重な情報である。また、いずれも「場所」に特に関係のある情報で、既往研究に見られた子供の病気や母親の気持ちの相談といったような意見交換とは質的に異なる情報であることがわかる。

これら投稿された情報は、行政が発行する広報などで

表1 カテゴリ別投稿数(2008年5月28日現在)

公共施設・相談機関	95	店舗・習い事	104
保育園・学童保育所	16	授乳室など	14
病院・医院	5	バリア情報	9
公園・自然	129	その他クチコミ	37
サークル・サロン	58		
		合計	467

表2 投稿された情報の例

タイトル	投稿内容
じゃぶじゃぶ池	(略)水が張られるのは、駒沢公園のプールが開放されている期間という噂。
ベビーカーも平気なカレー屋さん	(略)ベビーカーもOK!インド人のマスターも赤ちゃんにやさしいよ!(略)

は目にするのでできない口コミ情報のインターネット上での表出といえるが、口コミであるが故に情報の信頼性や質という点に課題が残る。ママパパぶりっじでは投稿された情報をスタッフが確認して、確認済みの「お墨付き」を与えるような方法を考えていたが、コスト面から実際にはおこなわれなかった。「お墨付き」の与え方について適切な運用方法はないかということを検討するとともに、インターネットのホームページに採用されている「拍手」のような仕組みを導入してユーザ相互での自浄作用を促進するなどの取り組みも必要である。

#### 6. ママぶりの実空間での活動

ママぶりはインターネット上の活動を主とするとともに実空間でもいくつかの活動を行ってきた。その際にはカキコまっぷへの投稿を促す活動も併せて行っている。

「ぶりっじ世田谷集中プログラム」や「世田谷子育てメッセ」という実空間でのイベントでは、ママぶりカキコ・カキコミブースを用意して情報の記入を促した。また、世田谷区の子育て支援団体の代表者自宅を訪問し、カキコまっぷのアピールと操作方法説明をした際には、その後数ヶ月間にわたって、当該代表者からの継続的な情報提供があった。インターネット空間のみならず実空間での活動が書き込み促進に寄与しているといえる。

一方で情報の提供も実空間でおこなってきた。「子育てクチコミ応援ガイド」(図1)というA2版3回折(=A5相当のサイズ)のリーフレットを作成し、区内の子育て関連施設に配布した。この応援ガイドにはママパパぶりっじの主たる目的である子育て支援団体の情報を多数掲載し、さらに毎号21件ずつカキコまっぷに寄せられた情報も記載している。世田谷区では、行政版子育て応援ガイドが発行されており、認可保育園や児童館についての情報は行政版で入手できる。クチコミ応援ガイドには行政版で扱わないようなNPOなどによる子育て支援情報や民間店舗に関する情報が記載されており、両方のガ



図1 子育てウチコミ応援ガイド

イドを手に入れることで世田谷区の子育て支援情報の両輪を手に入れることになる。インターネット上に蓄積された情報を紙媒体というリアルな情報媒体として当事者に「返す」方法の一例である。

## 7. インターネットでの子育てバリアフリー情報の提供

ママぶりカキコへの情報投稿は地図上に記入することから、必然的に具体的な場所に関する情報になる。これは、一般的な子育て支援掲示板では、母親の悩みや一般的な子育てに関する相談が展開されていることとは決定的に異なる。既往研究では、子育て層のインターネットへの投稿意欲は一般のユーザより高いというが、その指摘がカキコまっぷの利用者に当てはまらないことの1つの原因であろう。投稿数が少ない原因は、「相談」ではなく「情報提供」を求めているということであろうか、「場所」を特定するような情報の提供は難しいということであろうか。

一方で、記入された情報は、実体験した子育て層当事者からの情報であり情報入手にコストがかかる価値の高いものであり、さらにNPOが運営しているということで一般のお店の情報も扱え、子育て層の生活に密着した情報となっている。

また、情報投稿を促す方法として実空間でのイベント時の投稿促進策は有用である。投稿を手助けするような場を用意することで、日常生活で発見した情報を「公開」することにつながる。

カキコまっぷで蓄積・公開される情報は、情報を記入する子育て層自身が何らかの「救い」を求めるタイプのものではなく、それ故に情報交換が活発であるということはない。しかし、日常生活から得られる貴重な情報を何らかの形で発信したいという気持ちが当事者にはあり、実空間のイベントなどを通じて投稿機会を用意することでその気持ちが情報の表出へとつながることがわかる。実空間のイベントを適切に開催していくことで量を確保

する一方で、インターネット上だけでも量を確保できるような方策を考えていくことも必要だ。

子育て層が快適な都市生活を営むには、子育て層当事者同士の情報交換が必要であり情報交換が子育て層の心のバリアをも含んだバリアを軽減する。インターネットの匿名性などの特徴から「相談」という情報交換は活発に行われているようであるが、さらに具体的な情報交換の場となる可能性もある。

また、ベビーカーでのバリアは車いすにとつてのバリアとも通ずる。異なる分野と思われる情報を同じ「場」に集めて議論すると、同じような課題をはらんでいることに気付く。そのような場を「場所」をキーとして構成する、すなわち地図の上に整理するという効果を持つこともこのようなシステムを用いる特長でもある。

## 参考文献

- 1) 浜崎隆司・荒木美代子・高橋香織・原憲慶：「子育て支援におけるインターネット掲示板の活用」幼年教育研究年報、第23巻、pp.57-64、2001.
- 2) 林鎮代・久米礼子・服部順子・渡邊明日香：「インターネットによる子育て支援の一考察」日本保育学会研究論文集、No. 56、pp.482-483、2003.
- 3) 小林真：「インターネットの利用が母親の育児ストレスに及ぼす緩和効果」富山大学教育学部紀要、No. 58、pp.85-92、2003.
- 4) 笹田慶二郎・新谷公朗・金田重郎：「子育て支援を目指した『e-子育てNETシステム』の提案」第3回情報科学技術フォーラム、pp.367-370、2004.
- 5) 笹田慶二郎・新谷公朗・吉川宗孝・豊田実香・金田重郎：「子育て支援を重視したモバイル対応デジタル連絡帳の提案- e-子育てNETシステムのプロトタイプ開発」情報処理学会研究報告、No. 35、pp.69-76、2004.
- 6) 吉住優子・辻川ひとみ：「インターネットにおける出産と子育てに関する情報収集・交換の現状について：共働き夫婦の育児環境に関する研究その1」デザイン学研究・研究発表大会梗概集、No. 54、pp.286-287、2007.
- 7) 山田隆：「子育てにおけるインターネット利用～携帯電話による子育てホームページ～」東海女子大学紀要、No. 25、pp.151-162、2005.
- 8) 中山和美・山崎由美子・石原昌・久保田隆子・寺田眞廣・秋月百合・平川真由美：「母親たちが望む育児支援情報提要のあり方」母性衛生、Vol. 48、pp.471-478、2009.
- 9) 真鍋陸太郎・小泉秀樹・大方潤一郎：「インターネット書込地図型情報交流システム『カキコまっぷ』の課題と展開可能性」都市計画論文集、No. 38-3、pp.235-240、2003.
- 10) 中村昌広：「まちづくりへの参加の新しい局面とその道具としての『ガリバー地図』」日本都市計画学会学術研究論文集、No24、pp.511-516、1989.